

令和2年度

板野中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①共通の学びのスタイルを確立し、自己肯定感を高める授業の実践
- ②自主学習ノートを中心とした、家庭学習と課題提出の習慣化

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 西山拓志	委員	校長 山田 匠	教頭 三木健司	教頭 中山英治
		教務主任 高畑博之	特別支援コーディネーター 有田優起子	
		研修主任 千種晶子		
		学年主任 1年 園井忠泰	2年 佐藤佐江子	3年 乾直人
		教科主任 (国語)宮島大輔	(数学)西山拓志	

校長

山田 匠 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

(具体的目標)アンケート、チェックテストの実施 (具体的方策)アンケートの実施

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○一問一答形式の知識・技能については身につけている生徒が多い。 ●読み取りに時間がかかる問題や、複数の知識や技能が組み合わさった問題を解くことに課題がある。	・必要な情報を読み取ることができる。 ・身につけた知識や技能を繋げて考え、活用することができる。	・視写活動に取り組みさせる。 ・課題、めあて、まとめ、ふりかえりを効果的に設定した授業を展開する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○生徒会専門委員会等で意見を出し、日常・非日常(行事)の様々な場面で活動をしている。 ●主体的に考え、分かりやすく伝えることに課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えをまとめたり書いたりすることができる。	・主体的に考えることができる場面を設定した授業を展開する。 ・視写活動に取り組みさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○本鈴2分前に鳴る予鈴での着席について、多くの生徒ができています。 ●課題提出と家庭学習について課題がある。	・課題提出と家庭学習の習慣を付けることができる。	・自主学習ノートを中心として、学習方法を学ばせる。 ・計画的な課題提出の設定をする。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

